

第1回高知市地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日 時：平成 22 年 9 月 6 日（月）13:30～15:40

場 所：こうち勤労センター4階 こうち人づくり広域連合研修室

《議 事》

- (1) 全体スケジュール等について
- (2) 地域アクションプランについて
 - ① 平成 22 年度の進捗状況等について(平成 21 年度の取り組み状況を含む)
 - ② 追加・修正等の案件について
- (3) 産業成長戦略について
 - ① 平成 22 年度の進捗状況等について
- (4) その他

【意見交換】

・修正案に「年間を通じたよさこいの魅力づくり」があったが、あまりよさこいとして魅力のないスタイルで回数を多く見せるということは控えなくてはいけない。「まちなかよさこい」に関しても、これを見たから、よさこいの本祭の日に来なくてもいいというのではなく、かなりブラッシュアップをして、これを見たから来年必ず来ようと思うようなプランを考えていきたい。

東西軸エリアの会議の中で、高知県民が育ててきたよさこいをもっと誇りを持って全国に出せるようなスタイルを考えているので、それと連動して、踊り子の育成とか、練習とかいうこと全てが観光につながることを検討しており、今何となくぼんやりと見えてきている。

→楽しく踊るチームとそれから一定レベル美しく見せるというのはどちらも両方大事なことなので、よさこい 60 周年に向けてそのブラッシュアップをしていくことが必要。

・工業関係では、環境展や、特に高知市で開催していただいた「土佐商談会 2010」は、非常に成果があったと聞いている。計画では、22 年度で終了となっているが、成果のあるものは続けてやっていただきたい。

→広島や岡山から多くの企業さんに来ていただいたが、大変いい取り組みで、探しているものがあったという話を聞いた。この取り組みは 22 年度までと聞いているが、県内企業の方々からも、是非、来年もやってほしいという声を聞いているので、県と協議して、できたら来年度以降も継続する方向で検討していきたい。

→県では市と協力して、いろんな商談会を開催しており、どれが良かったとか、これは見直す必要があるということを議論している。継続については、商工業部会に報告し、検討していきたい。

・龍馬は、全国レベルで今ブレイクしているが、長宗我部も若い人たちの間では、ゲームの世界で、非常にブレイクしており、流れが変わりつつある。戦国ものなので人が替わっていくという可能性があるので、今のこの時期を逃したらいけないと思う。是非、力を入れていただきたい。

また、長宗我部元親は大河ドラマの素材として非常に有力と思うので、そういう動きも早めにされたらどうかと思う。

→長宗我部は是非、観光に生かしていきたい。

- ・まち歩き観光については、それぞれの地域に我々もあまり知らないような観光の素材となる歴史的なものや自然的なものがある。各地域でガイドができるように発掘し、長崎の「さるく博」のような、いろんなテーマでもって、いろんなコースをいろんなパターンで設定することに力を入れていただきたい。
また、そのためには、郷土史家とか地域ボランティアの方を是非、活用していただきたい。

- ・広域観光の説明があったが、観光客というのは高知市だけに来るわけではないので、県の調整になると思うが、いい組み合わせを考えるための周辺市町村との話し合いの場とか、そういう仕組みづくりといったものもお願いしたい。

→「龍馬伝」は、全国的なブームになっており、その影響で高知の注目度は非常に高まっている。メディアもいろんな全国放送的なものが高知を集中的に流しており、非常にチャンスだが、ブラッシュアップしていかなければいけないものが幾つかある。アクションプランにはまだ記載をしてないが、仁井田の武市半平太の生家とお墓にも相当今県外の方々が来られているので、武市半平太の墓地もブラッシュアップしていくことが重要と考えている。

- ・インバウンド対策では、高知県は取組が遅れているので、市・県が一緒になって動かなければいけないし、四国全体でやらなければいけないことだが、受入体制だけではなく、どこをターゲットにどういう呼び込み方をするかといった、いろんな戦略が重要になってくると思うので、受入態勢だけでないアクションプランを是非考えてほしい。

→台湾での「龍馬伝」の放送と「台湾龍馬会」の発足をきっかけに、7月下旬に県・市の関係者で台湾を訪問した。台湾は非常に親日的な国で旅行好きで、個人旅行も増えてきており、行ったことのない所に対するニーズが高い。ショッピングにはあまり興味がなく、食事とか温泉とか自然に関心が高いということで、高知が一体何を売りにして台湾にPRしてくれるのかということに期待したいとの話もいただいた。当面、「龍馬伝」や「君が踊る、夏」が上映されれば、それをとっかかりとしてロケ地観光といったことも大いにPRをしていきたい。

県の9月の議会で必要な補正も組み、台湾でのPRに取り組んでいくことになっている。韓国の方もSKワイバーンズとの縁などもあるので、こういったところをとっかかりに誘客していきたい。今、日本全体で中国人観光客をいかに呼び込むかで争奪戦をしているので、県と連携して取り組んでいきたい。

- ・中国はバックグラウンドが大きいので、今回のビザ解禁で観光客が増える可能性が無限にある。高知市は蕪湖市と伝統的につながりを持っており、この10月には、高知市からは蕪湖市へ100人を超える市民訪問団が訪問を予定している。蕪湖市からは公的な関係者が来るぐらいで一方通行になっているので、まずは蕪湖市や安徽省から高知市の方へ市民訪問団、親日観光の訪問団に来ていただくといったことから始めていってはどうか。

→蕪湖市には、提携25周年を記念して10月中旬に高知市から訪問することになっているので、中国からも来ていただけるよう働きかけていきたい。また、安徽省には提携している県の方で働きかけていただきたいと考えている。

- ・マンガは、東西軸の会議でも、いろいろと検討されていると聞いているが、観光素材として高知の個性を全国にアピールするという意味で非常に有力な観光素材だと思うので、是非、力を入れていただきたい。

→マンガの関係は県の方でもマンガ・コンテンツ課が立ち上がっている所以、高知市のマンガの関係と県の方のコンテンツが連携して取組を進めていく。

- ・高知市の森林組合では、二つ目の「森の工場」が稼働している。また、林家の人たちの励ましになろうと、県下に先駆けて民有林版の協働の森の開設にも取り組んでいる。山間地域では、農林業とって農業と林業をやっている、特に小規模林家の人が多く、材価は依然として低迷を続けており、林家にとって生活の糧とできる売り上げには至っていないが、組合として少しでも手入れをして優良材を育てていこうと取り組んでいる。
→民有林の「森の工場」は、高知県全体の中で一つの大きなモデルにもなっているので、何とか我々も形に仕上げていきたい。
- ・県外のお客様から、川の流れに目を向けるだけで癒されるという話を聞く。平成の名水100選になっている鏡川を、産業振興計画に取り上げて、周辺の景観整備を整えていくことも必要。
→鏡川上流域というのは一つの大きな資源だと思うので、それを生かす形を考えなければならぬと思う。勉強して、必要なところは改善していきたい。
- ・ユズの加工残渣については、受け入れてくれていたセメント工場の機能がとまったので、大変危惧している。また、私どものライスセンターからのもみ殻を粉碎したものをユズの残渣と混ぜて堆肥工場で堆肥を作っている。このもみ殻は大変好評だが不足しており、堆肥も不足しているので、生産者から増やしてくれるよう要望を受けている。市や県に、施設の増築のための補助金をお願いしたい。
→土佐山だけの問題ではないので、高知県中央部の農作物の残渣処理、いわゆる産廃として出た農作物関連の残渣処理の問題もあるので、セメント工場の代替先を県と連携しながら確保していきたい。
- ・園芸品の加工の関係では、トマト、キュウリ、ショウガでも下級品が発生する。時期によっては販売もできるが、安い時にどう所得につないでいくかが課題。加工にも取り組んでいるが、一番の問題は売っていく量と製造する量とのバランス。上手な製造と上手な販売に努力していく必要があるが、なかなか大変である。できれば、ショウガの飲み物とかの開発を検討してほしい。
→アンテナショップを含めて、今、東京都内では高知県産のショウガを使ったいろんなジャムとかショウガを溶かして飲むお茶とか、かなり売れているように聞いている。東京のメーカーも非常に興味があると聞いており、売れることが分かれば取引がかなりあると思うので、そういったところにつなげていけるよう、県の方で商品開発やテストマーケティングの支援もあり、検討願いたい。
- ・銀座のアンテナショップのテストマーケティングに行ってきたが、お客さんの反応も良かった。またアンテナショップの一つの特徴である外商についても、百貨店のバイヤーとの具体の商談も始まっているようで、いいスタートを切っていると思う。
- ・県漁協は発足して2年目で、今後、販売ができる担当を作るということが一番大切だと思う。高知市内には大型底引きでメヒカリや沖ウルメ、小型底引きでエビや雑魚、そして機械バッチでちりめんじゃこを捕っている。また1本釣りではカツオやアジ、サバ、ウルメがあり食材は幾らでもある。その他に浦戸湾のエガニもあるが、乱獲ぎみで資源がどんどん少なくなっている。全国的に有名なカニであるので、是非、繁殖に努めていくべきと思っている。
また、ねえやん御畳瀬祭りや横浜にぎわい市などを行っており、年に1回ぐらいであるので、十分なPRはできていないが、精いっぱい努力をしている。県漁業の直販所も横浜にでき、皆さん方に親しまれる状態になってきている。ただ、おいしい料理の仕方や有利な販売方法といった研修が大切であると思うので、今後とも支援を願いたい。

・土づくりができてないとおいしい野菜ができない。今、農家で土に優しい堆肥を使って土を改善していこうということが広がっている。堆肥センターの堆肥の生産が需要に追いついておらず、中山間の農家が必要な時に堆肥がないというのが現状。農業の基をなすものですので、力添えをいただきたい。

→ご意見は土佐山での堆肥づくりのことだと思うが、場所の問題があつてすぐに拡張は難しい状況。ただ、堆肥の拡大はずっと言われている大きなテーマなので、県と連携をしながら、協議していきたい。

・ユズの絞りかすを処分するのにお金がかかっているが、ある方から、海外、特にフランスでは、化粧品にしても食材にしても、ユズを使うことがはやっているので、パウダー化をする研究をしてはどうかと教えていただいた。そうしたことに取り組んではどうか。

→ユズは皮から香料でもだいぶ取られているが、その消費量が十分でないので産業廃棄物として出ている。パウダー化となると乾燥技術とか、香りを残しながら乾燥するとかいう結構難しい技術が要るのではないかと思うし、県の工業技術センターを含めて、県の方の技術も借りなければならないと思う。また、ユズ組合の方では土佐山でまとまっているので、テストなどにも協力できると思う。

→県内でも民間ベースで商談会が開催されており、全国からいろんなバイヤーが高知を訪れている。そうしたバイヤーと生産者とマッチングすることも重要なので、いろんな部分で民間と情報共有していきたい。

※ 地域アクションプランの修正項目と追加項目は、委員から異論はなく承認された。また、委員から出された意見は、今後の展開の中で参考にさせていただくことで了承された。